

島守中学校の環境教育

1. 本校の特色

本校は八戸市の南部に位置し、島守盆地のほぼ中央にあります。島守盆地は平成10年より田園空間博物館として整備されてきています。田園空間博物館とは、自然環境や人々が暮らしている生活空間の全体を「博物館」として捉えるもので、豊かな島守盆地の景観や地域の生活が丸ごと博物館という考えに基づいています。

本校では、島守盆地を貫いて流れる新井田川及びその支流の古里川周辺について、3学年選択理科での授業を通して、さまざまな調査活動を行ってきました。

2. これまでの調査活動（H13～20年度）

（1）島守地区の水質調査

平成13年度からの継続研究で、今年で8年目となります。新井田川とその支流の古里川について、物理・化学的性質（水温・色・にごり・pH・COD等のパックテスト）と、指標生物による水質判定を行ってきました。毎年、追求するテーマを変えて研究しています。



荒谷橋付近での水質調査の様子
平成20年6月7日（土）実施

（2）島守地区のホタル調査

学区周辺（頃巻沢、東台、荒谷地区）のホタルの種類と分布について調査を行いました。ホタルの生息数は、水質、農薬散布の時期、繁殖期、餌となるカワニナの数などに影響されることを知ることができました。

（3）島守地区の植物調査

新井田川の川原に生息する植物の種類と個体数を調べました。川原の護岸工事による影響や、植物の遷移について考察しました。

（4）島守地区のツバメ調査

橋の下に巣を作った親ツバメ・子ツバメの行動や生態、種類について調べました。

（5）島守地区の土壌生物調査

島守地区のりんご畑、雑木林について、土壌生物の分布や種類を調査しました。周囲の生態系をできるだけ破壊しないように、空き缶をくり抜いたもの（面積小）を土にさして行いました。

3. 成果と課題

* 成果 生徒からは「島守の自然を詳しく学べた。このきれいな環境を守り続けたい」との感想が多く寄せられました。郷土に対する愛着、研究を継続することの使命感を育むことができたのではないかと思います。

* 課題 3年選択理科の授業（前期：週1時間）だけでは、遠くへ調査することができず、休日を使ったことも多かったです。計画的に進めることの必要性を感じました。生徒数や選択授業時数の減少、指導者の交代等の問題点はありますが、「地元を自然を継続して調べる」との教育的効果を期すべく、今後も継続して研究に取り組み、次代へ受け継いでいきたいと思っています。